

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”
 ～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和３年度福岡教育事務所管内「子どもの読書活動研修会」	
期 日	令和３年１０月１４日（木） １３：１５～１５：０５（受付１３：００～）	
参加者	８７名（オンライン参加）	
日 程	時 間	内 容
	１３：００	【受 付】※Zoom 入室時間
	１３：１５	【開会行事】
	１３：２０	【説 明】「本研修会のねらいについて」 福岡教育事務所 社会教育室 社会教育主事
	１３：３０	【実践発表】「宗像ビブリオバトル倶楽部の取組」 宗像ビブリオバトル倶楽部 代表 品川 恭徳 氏
	１４：００	【講 話】「読書の魅力の伝え方」 直方市立図書館 館長 野口 和夫 氏
	１５：００	【閉 会】
	１５：０５	
活動の実際	【実践発表】 宗像ビブリオバトル倶楽部代表の品川恭徳氏に、「宗像ビブリオバトル倶楽部の取組」と題して、実践発表をしていただきました。宗像ビブリオバトル倶楽部は、読書を通してつながる取組をこれまでにたくさんしてこられており、全国組織であるビブリオバトル普及委員会が選ぶ「ビブリオバトルオブザイヤー２０２０」では新人賞を受賞されています。実践発表ではこれまでのビブリオバトル倶楽部としての取組を中心にお話していただきました。ご自身のお仕事から見てきた学生の姿から、ビブリオバトル倶楽部を始められた経緯をお話していただきました。「伝える力」を育成することの大切さを実感されたことも	



【品川氏による実践発表の様子】

	含めて、ビブリオバトルの効果についてもお話していただきました。 参加者のアンケートでは、「昨年からコロナ対策で、読書イベントで人を集めて楽しむこと、取組の仕方について考えていた。オンラインやパネルでの集計など現在の取組が参考になった。」や「ビブリオバトルの効果は本とであえるよいことばかりである。オンラインでやる方法もあることが参考になった。」など、今後の取組の参考になったという感想が多くありました。 【講 話】 直方市立図書館長の野口和夫氏に、「読書の魅力の伝え方」と題して、講話をしていただきました。誰もが来館しやすい図書館にしたい、本の楽しさや魅力を伝えたいという思いをもち、日々ご尽力されています。幅広い視点から読書の魅力について話していただきました。講話は、野口氏のストーリーテリングから始まり、聴いている誰もが話に引き込まれていきました。子どもたちの現在の様子についてお話いただいた中で、「なにごとにも旬がある。」という言葉は読書活動を推進していく上で、大切な視点だと感じさせられました。まずは、「大人は、自分が楽しく読書をすればいい！」という言葉にも、参加者の皆様も自分自身を振り返るきっかけになったと思います。図書館の役割として「来館者の借りたい本が必ず手元に届くようにすること。」「来館したときに思いもしなかった本との『であい』があるように工夫をすること。」と地域の学校の図書委員の子どもたちにお話されていることは、読書活動に携わる私たちも大切にしたいことだと思いました。 参加者のアンケートでは、「小学生までに読書の力をつけておくと、たとえブランクがあっても、いい本とのであいがあれば、また読書を楽しむことができると思う。また、どんなやり方で読書推進をしても本の楽しみが伝わらない限り、本を楽しむことはできないという基本的な考えはこの仕事を始める時から基盤としていたので、改めて感じるころがあった。」のように、野口氏の話が今後の取組の参考になったという感想が多くありました。
全体をとおして	【野口氏による講話の様子】 参加者のアンケートの感想では、「公共図書館祭りでの、ビブリオバトル大会を取り組んでみたいと思った。」「本を手にするきっかけづくりになる展示をしたいと思った。」などという感想があり、それぞれの参加者が実践発表や講話から学んだことをもとに今後の取組の意欲につなげることができたのではないかと考えます。今回は実践発表と講話の研修でしたが、参加者どうしが意見交流をする時間を設けると、より深まった研修になったと思います。 福岡教育事務所社会教育室といたしましても、今後も管内市町に対しての支援や情報提供を行い、子どもの読書活動の推進に取り組んでいきたいと思ひます。